

表1 旧具志川村及び旧仲里村の概況

	項目(調査年・単位)	具志川村	仲里村	合計
A 人口 世帯	人口総数(H12・人)	4,237	5,122	9,359
	15歳未満人口(H12・人)	830	944	1,774
	15～64歳人口(H12・人)	2,501	2,994	5,495
	65歳以上人口(H12・人)	906	1,184	2,090
	外国人(H12・人)	13	8	21
	出生数(H12・人)	54	51	105
	死亡数(H12・人)	34	49	83
	転入者数(H13・人)	281	251	532
	転出数(H13・人)	350	316	666
	昼間人口(H12・人)	4,571	4,913	9,484
世帯数(H12・人)	1,432	1,745	3,177	
B 自然	総面積(H13・Km2)	25.48	37.95	63
	可住地面積(H13・Km2)	17.61	22.06	40
C 経済 基盤	課税対象所得(H11・百万円)	3,010	3,425	6,435
	事業所数(H13・所)	300	376	676
	第2次産業事業所(H13・所)	37	125	162
	第3次産業事業所(H13・所)	259	244	503
	第2次産業従業者数(H13・人)	299	545	844
	第3次産業従業者数(H13・人)	1,157	1,521	2,678
	農業粗生産額(H12・百万円)	1,080	1,150	2,230
	製造品出荷額(H12・百万円)	419	5,669	6,088
	製造業従事者数(H12・人)	43	1,068	1,111
	商業年間販売額(H10・百万円)	4,293	2,812	7,105
	商業商店数(H11・店)	97	79	176
	商業地平均価格(H13・円/m2)	43,400	29,000	
D 行政	財政力指数(H12)	0.15	0.16	
	公債費比率(H12)	9.8	11.9	
	歳入決算額(H12・百万円)	3,779	4,907	
	歳入決算額(H12・百万円)	3,759	4,746	
	地方税(H12・百万円)	266	318	
E 教育	幼稚園数(H13・園)	2	4	6
	在園者数(H13・人)	48	66	114
	小学校数(H13・校)	2	4	6
	小学校児童数(H13・人)	293	409	702
	中学校数(H13・校)	1	3	4
	中学校生徒数(H13・人)	200	228	428
	高等学校数(H13・校)	1	0	1
	高等学校生徒数(H13・人)	347	0	347
F 労働	就業者(H12・人)	1,781	2,260	4,041
	完全失業者(H12・人)	247	241	488
	第1次産業就業者数(H12・人)	521	561	1,082
	第2次産業就業者数(H12・人)	300	504	804
	第3次産業就業者数(H12・人)	948	1,187	2,135
	役員数(H12・人)	36	48	84
	家族従業者数(H12・人)	206	155	361
	自町従業の就業者数(H12・人)	1,554	1,966	3,520

注 総務省統計局『統計でみる市区町村のすがた』2003より作成

表2 新町建設計画案における主要事業(合併協議会)

事業名	事業の概要	概算事業費(千円)	構成比(%)
農業の振興	地域農業管理施設整備事業 農業生産総合対策条件整備事業 農業経営構造対策事業	1,872,500	20.6
畜産業の振興	繁殖雌牛家畜共済加入事業 優良指定雌牛繁殖事業	94,500	1.1
林業の振興	流域森林総合整備事業	110,670	
水産業の振興	漁港海岸事業 沖縄県水産業拠点強化構造改善特別対策事業 漁港機能高度化事業 地域水産物供給基地整備事業	1,613,538	17.8
商工業の振興	海洋深層水関連施設整備事業 特産品加工施設整備事業 商工観光会館建設事業 久米島紬協同作業整備事業	873,000	9.6
観光関連産業の振興	イーブ観光リゾート整備事業 クメジマボタルの里整備事業 観光地案内標識整備事業 体験滞在交流促進事業 島の学校体験交流施設整備事業 パーデハウス久米島整備事業 温泉利用施設整備事業 西海岸開発事業	4,557,650	50
合 計		9,121,858	

出典: <http://www.town.kumejima.okinawa.jp/gappei/sub14.htm>より作成

表3 久米島におけるフッ化物調整事業の動向

平成 月	主な動き	歯科保健・研究班等の動き
元		
2 #####	太田(具志川出身)知事・宮平出納長(仲里出身)	
3		具志川村:学校保健にF洗口事業導入
5	仲里村・具志川村商工会合併検討	西宮斑状歯裁判最高裁判決(12月17日)
6	「海洋深層水研究拠点立地条件調査」実施 商工会「合併問題研究委員会」発足	
7	沖縄型海洋深層水総合利用システム開発調査 久米島に建設位置を選定	
8	海洋深層水総合利用についての基本方針策定 内間氏具志川村長就任	
9 5月13日	先導的研究開発施設の整備事業(国庫補助) 合併協議会(内間会長)第1回会議	
10 12月9日	太田知事・宮平副知事退任 高里氏仲里村長就任	
11 8月 11月	久米島「美ら島」推進協:環境美化運動一元化 沖縄県海洋深層水研究所着工	日本歯科医学会「F応用についての総合的見解」(11月11日) 健康日本21にF塗布3歳児割合・F配合歯磨剤使用割合目標
12 1月 4月	沖縄県海洋深層水研究所開所(真謝500-1) 久米島海洋深層水開発KK設立(宇江城2178-1) 久米島町商工会発足(両村商工会合併)	厚生科学研究班発足(H12-14)
13 1月 3月 4月 10月5日 ##### 12月	ポイントピュール設立(仲里村真謝) 合併推進本部設置(高里本部長) 合併協議書調印 ##### 県知事より両村長に合併の決定書交付	NHKテレビ(1月24日)NHKラジオ(5月9日) 県の支援方針表明(9月26日、正式決定は10月上旬) 毎日新聞報道(9月28日)長崎放送(11月29日) 久米島WaterFluoridationProject 久米島Fイオン濃度測定技術支援・健康調査(園児児童生徒老人 具志川住民説明会14地区(1月まで)問答集パンフ作成
14 4月1日 5月12日 5月13日 5月14日	久米島町誕生 町長選挙:13票差で高里氏(仲里出身)当選 フッ化物調整事業中止表明 沖縄タイムス社説	
15		
16 6月6日	パーデハウス久米島オープン 内間元具志川村長県議会議員(無所属)当選	
17 #####	第2回海洋深層水セミナー沖縄大会(具志川)	
18 4月23日	町長選挙:平良氏(仲里出身)当選	
19	「深層水の日」6月12日 パーデハウス久米島:アレルギー対応型観光	むし歯予防全国大会in沖縄:シンポジウム(11月23日) シンポジウム「沖縄のフロリデーション、50年の検証」

資料

- 1 高江洲義矩『歯科疾患の予防技術・治療評価に関するフッ化物応用の総合研究』平成13年度研究報告書.2002.
- 2 二宮一枝『公衆衛生におけるインフォームド・コンセント—齲歯予防と水道水中のフッ化物』慧文社.2005.
- 3 「仲里村94年のあゆみ」『広報なかさと』平成14年3月号
- 4 ゼミナール『平成の大合併と選挙』市町村長編 <http://www.news.janjan.jp/election/0612/0612140478/1.php>
- 5 会報『がっぺい』<http://www.town.kumejima.okinawa.jp/gappei/sub16.htm>
- 6 広報くめじま<http://www.town.kumejima.okinawa.jp/kouhou/kouhou.htm>
- 7 沖縄県海洋深層水研究所 <http://www.pref.okinawa.jp/odrc/welcom2odrc.html>
- 8 第2回海洋深層水セミナー沖縄大会 <http://www.npojadowa.net/DWScript/kaikai.htm>
- 9 フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』

表4 合併協議会委員構成

エリア/種別	県	町	具志川村	仲里村	
政治			議長	議長	
政治			副議長	副議長	
政治			議員	議員	
政治			議員	議員	
政治			議員	議員	
政治			議員	議員	
行政	合併	市町村課	(合併推進本部)	副本部長(村長)	本部長(村長)
行政			合併協議会	会長(村長)	副会長(村長)
行政				助役	助役
行政				収入役	収入役
行政				教育長	教育長
行政				総務課長	総務課長
行政	企画	企画調整室		企画課長	企画開発課長
団体	地域			区長会長	区長会長
団体	世代:老人			老人クラブ連合会長	老人クラブ連合会長
団体	世代:成年			青年団協議会長	青年団協議会長
団体	性:婦人			婦人会長	婦人会長
団体	目的:生活			生活研究会長	生活研究会長
団体	商工		商工会長		
団体	商工		商工会理事		
団体	商工		商工会婦人部長		
団体	商工			建設業協会会長	建設業協会会長
団体	農業		農協組合長		
団体	農業		農協組合女性部長		
団体	農業			農業委員会会長	農業委員会会長
団体	漁業		漁協組合長		
団体	漁業		漁協組合女性部長		
団体	経済		ロータリークラブ会長		

出典 <http://www.town.kumejima.okinawa.jp/gappei/subu6.htm>より作成

平成 19 年度研究成果一覧

厚生労働科学研究「フッ化物応用による歯科疾患プログラムの構築と社会経済的評価に関する総合的研究」(H18-医療-一般-019) 平成 19 年度研究成果一覧

1. 平成 19 年度研究報告書

研究課題 1 日本人のフッ化物摂取基準

- 1) 眞木吉信、西牟田守、中垣晴男、小林清吾、古賀 寛、荒川浩久
飯島洋一、板井一好、平田幸夫、佐藤 勉、村上多恵子：日本人における
フッ化物摂取基準案（日本口腔衛生学会承認支援）
平成 19 年度研究報告書、2008 年 4 月.
- 2) 西牟田 守、板井一好、佐藤 勉：ヒトのフッ化物平衡維持摂取量
平成 19 年度研究報告書、2008 年 4 月.
- 3) 飯島洋一：フッ化物総摂取量とリスク評価
平成 19 年度研究報告書、2008 年 4 月.
- 4) 小林清吾、磯崎篤則：コミュニティ・ケアにおけるフッ化物応用プログラム
—地域自治体におけるフロリデーション事業の展開(2)—
平成 19 年度研究報告書、2008 年 4 月.

研究課題 2 フッ化物局所応用のう蝕予防プログラム

- 5) 高橋信博：高濃度フッ化物の口腔内細菌に対する生存抑制効果
平成 19 年度研究報告書、2008 年 4 月.
- 6) 今里 聡：フッ化物徐放性ワンステップ・セルフエッチング
接着システムの根面修復における接着安定性の評価
平成 19 年度研究報告書、2008 年 4 月.
- 7) 福島正義：試作 S-PRG フィラー含有根管充填用シーラーに関する研究
—根管封鎖性、抗菌性および根管壁への各種イオンの移行について—
平成 19 年度研究報告書、2008 年 4 月.

8) 古賀 寛：エナメル質へのフッ化物取り込みと口腔内フッ化物濃度を指標とした思春期以降のフッ化物配合歯磨剤の有効使用量
平成 19 年度研究報告書、2008 年 4 月。

9) 眞木吉信：ライフステージ別フッ化物応用プログラム
平成 19 年度研究報告書、2008 年 4 月。

研究課題 3 フッ化物洗口剤の OTC 化制度

10) 花田信弘、薄井由枝：ヨーロッパ 3 国のフッ化物含有洗口剤利用状況の調査研究と薬事法改正からみるフッ化物含有洗口剤の一般用医薬品への可能性
平成 19 年度研究報告書、2008 年 4 月。

研究課題 4 フッ化物応用のリスクコミュニケーション

11) 岡本浩一、小林清吾、眞木吉信、古賀 寛、薄井由枝、平田幸夫：
水道水フロリデーション啓発のための DVD の開発——一般市民向け——
平成 19 年度研究報告書、2008 年 4 月。

12) 二宮一枝：フッ化物濃度調整事業におけるインフォームド・コンセント
—具志川村におけるフッ化物調整事業中止事例のプロセス—
平成 19 年度研究報告書、2008 年 4 月。

2. 学術論文等

著書（邦訳等）

1) 可児徳子、松井恭平、眞木吉信 編著：最新歯科衛生士教本 保健生態学、医歯薬出版、東京、2007。

2) 王 宝禮、可児徳子、松井恭平、眞木吉信 編著：最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学、医歯薬出版、東京、2008。

3) ウイルキンス（眞木吉信、石川達也、他 訳）：歯科衛生士の臨床、医歯薬出版、東京、2008。

4) Sato T, Abiko Y, Mayanagi G, Matsuyama J, Takahashi N: Detection of periodontopathic bacteria in periodontal pockets by nested polymerase chain

- reaction. In: *Interface Oral Health Science 2007*, Springer, Tokyo, in press, 2007.
- 5) Nakajo K, Takahashi Y, Kiba W, Imazato S, Takahashi N: Fluoride released from glass-ionomer cement is responsible to inhibit the acid production of caries-related oral streptococci. In: *Interface Oral Health Science 2007*, Springer, Tokyo, in press, 2007.
 - 6) Washio J, Nakajo K, Sato T, Matoba S, Seki T, Yamamoto N, Yamamoto M, Takahashi N: The hydrogen sulfide production by oral *Veillonella*: effects of substrate and environmental pH. In: *Interface Oral Health Science 2007*, Springer, Tokyo, in press, 2007.
 - 7) Miyasawa-Hori H, Aizawa S, Washio J, Takahashi N: Inhibitory effects of maltotriitol on the growth and the adhesion of mutans streptococci. In: *Interface Oral Health Science 2007*, Springer, Tokyo, in press, 2007.
 - 8) Abiko Y, Sato T, Mayanagi G, Takahashi N: Profiling of subgingival plaque biofilm microflora of healthy and periodontitis subjects by real-time PCR. In: *Interface Oral Health Science 2007*, Springer, Tokyo, in press, 2007.
 - 9) Ito Y, Sato T, Mayanagi G, Yamaki K, Shimauchi H, Takahashi N: Microflora profiling of root canal utilizing real-time PCR and cloning-sequence analyses based on 16S rRNA genes -Differences between before and after root canal treatments-. In: *Interface Oral Health Science 2007*, Springer, Tokyo, in press, 2007.
 - 10) Masaki M, Sato T, Sugawara Y, Sasano T, Takahashi N: *Candida* species as members of oral microflora in oral lichen planus. In: *Interface Oral Health Science 2007*, Springer, Tokyo, in press, 2007.
 - 11) Miyoshi Y, Watanabe M, Takahashi N: Gelatinase activity in human saliva and its fluctuation in the oral cavity. In: *Interface Oral Health Science 2007*, Springer, Tokyo, in press, 2007.
 - 12) Aizawa S, Miyasawa-Hori H, Mayanagi H, Takahashi N: The effect of amylase and its inhibitors on acid production from starch by *Streptococcus mutans* and *Streptococcus sanguinis*. In: *Interface Oral Health Science 2007*, Springer, Tokyo, in press, 2007.

- 13) Matsuyama J, Sato T, Takahashi N, Sato M, Hoshino E: Real-time PCR analysis of genera *Veillonella* and *Streptococcus* in healthy supragingival plaque biofilm microflora of children. In: *Interface Oral Health Science 2007*, Springer, Tokyo, in press, 2007.

論文

- 1) Sato R, Sato T, Takahashi I, Sugawara J, Takahashi N: Profiling of bacterial flora in crevices around titanium orthodontic anchor plates. *Clin Oral Implants Res* 18(1): 21-26, 2007.
- 2) Shimonishi M, Hatakeyama J, Sasano Y, Takahashi N, Uchida T, Kikuchi M, Komatsu M: *In vitro* differentiation of epithelial cells cultured from human periodontal ligament. *J Periodontal Res* 42(5): 456-465, 2007.
- 3) Shimonishi M, Hatakeyama J, Sasano Y, Takahashi N, Komatsu M, Kikuchi M. Mutual induction of noncollagenous bone proteins at the interface between epithelial cells and fibroblasts from human periodontal ligament. *J Periodont Res* 43(1): 64-75, 2008.
- 4) Shimizu K, Igarashi K, Takahashi N. Chair-side evaluation of pH-lowering activity and lactic acid production of dental plaque: correlation with caries experience and caries incidence in preschool children. *Quint Int* 38(2): in press, 2008.
- 5) Sato T, Matsuyama J, Mayanagi G, Abiko Y, Kato K, Takahashi N: Nested PCR for the sensitive detection of cariogenic bacteria. *Cariology Today* 3(1): in press, 2008.
- 6) Kaneshiro AV, Imazato S, Ebisu S: Comparison of bonding ability of single-step self-etching adhesives with different etching aggressiveness to root dentin. *Dent Mater J* 26 (6): 773-784, 2007.
- 7) 今里 聡, 桃井保子: 根面う蝕の特徴と処置, 歯科臨床研修マニュアル アドバンス編 ひとつうえをめざす研修医のために (覚道健治, 前田芳信, 栗田賢一, 古谷野 潔, 高橋 哲, 中川種明 編), 永末書店, 東京, pp. 51-54, 2007.
- 8) 今里 聡, 福西一浩: コンポジットレジンのボンディングシステムは何を使用しているか, The Quintessence YEAR BOOK 2008 現代の治療指針 歯周治療と全治療分野編,

クインテッセンス出版, 東京, pp. 242-243, 2008.

- 9) Frencken JE, Imazato S, Toi C, Mulder J, Mickenautsch S, Takahashi Y, Ebisu S: Antibacterial effect of chlorhexidine containing glass-ionomer cement in vivo: a pilot study. *Caries Res* 41 (2): 102-107, 2007.
- 10) 韓 臨麟、竹中彰治：試作 S-PRG フィラー含有根管充填用シーラーに関する研究 -根管封鎖性、抗菌性および根管壁への各種イオンの移行について- 興地隆史日本歯科保存学雑誌、50 巻、6 号、713-720, 2007.
- 11) Evaluation of Physical Properties and Surface Degradation of the Self-adhesive Resin Cement Linlin HAN, Akira OKAMOTO, Masayoshi FUKUSHIMA and Takashi OKIJI. *Dent Mater* J26(6): 906-914, 2007
- 12) Koga H, Yamagishi A., Takayanagi A., Maeda K., Matuskubo T. Estimation of optimal fluoride dentifrice for adults to prevent caries by comparison between fluoride uptake into enamel in vitro and fluoride concentration in oral fluid in vitro. *Bull Tokyo Dent Coll* 48(3):119- 128, 2007.
- 13) 古賀 寛：う蝕予防による医療経済効果-予防を経済学ではいかに考えるか-。小児歯科臨床 12(11):29- 38, 2007.
- 14) 眞木吉信：いろいろあるフッ化物製剤 どうつかいわけろ。歯科衛生士 32(3):23-40, 2008.

学会発表

- 1) Nakajo K, Takahashi Y, Kiba W, Imazato S, Takahashi N: Fluoride released from glass-ionomer cement is responsible to inhibit the acid production of caries-related oral streptococci. The 2nd International Symposium for Interface Oral Health Science (Sendai), February 19, 2007. Program and Abstracts of the International Symposium for Interface Oral Health Science, p. 45, 2007.
- 2) 岡村健司, 林 美加子, 今里 聡, 高橋 豊, Evgeni Koychev: 象牙質接着システムおよびレジンセメントの根管象牙質への接着強さ-根管内の部位が及ぼす影響. 第 49 回日本歯科理工学会・第 25 回接着歯学会合同学術大会, 2007 年 5 月 12 日, 札幌市.

- 3) 韓 臨麟、岡本 明、福島正義、興地隆史：セルフアドヒーシブレジンセメントに関する研究：第49回日本歯科理工学術大会、2007年5月11-12日北海道
- 4) 古賀 寛：日本人のフッ化物摂取基準案作成とその意義、口腔衛生学会雑誌 57(4)：324, 2007. (第56回日本口腔衛生学会・総会、東京)
- 5) 多田美穂子、古賀 寛、田邊吉彦、鏡 宣昭、眞木吉信. 児童の咬合力とセルフエステームの関連性. 口腔衛生学会雑誌 57(4)：451, 2007. (第56回日本口腔衛生学会・総会、東京)
- 6) 古賀 寛、田邊吉彦、眞木吉信、松久保 隆. ムース状フッ化物配合歯磨剤オラリスの歯質へのフッ化物取り込み. 口腔衛生学会雑誌 57(4)：472, 2007. (第56回日本口腔衛生学会・総会、東京)
- 7) 古賀 寛、山岸 敦、高柳篤史、前田晃嗣、松久保 隆. セルフケアにおけるフッ物の有効性研究 9-高濃度フッ化物配合歯磨剤の歯質フッ化物残留性-. 口腔衛生学会雑誌 57(4)：471, 2007. (第56回日本口腔衛生学会・総会、東京)
- 8) 鷺尾純平、高橋信博：舌苔構成細菌と口臭-舌苔常在菌による口臭の産生-. 口臭臨床研究会 第2回学術集会シンポジウム (名古屋), 2007年6月24日 プログラム・抄録集 pp. 30-31, 2007.
- 9) 鷺尾純平、佐藤拓一、中條和子、高橋信博：舌苔と口臭-舌苔常在細菌の口臭産生への関与-. 第49回歯科基礎医学会学術大会サテライトシンポジウム (札幌), 2007年8月29日 *J Oral Biosci* 49(S): 26, 2007. (Abstract #SS3-6)
- 10) 高橋信博：口腔生態系から見た齲蝕学. 日本小児歯科学会平成19年度専門医・認定医第1回合同セミナー2007年9月29日 (横浜)、第2回合同セミナー2007年10月20日 (大阪)、第3回合同セミナー2007年11月4日 (岡山)
- 11) Takeuchi Y, Nakajo K, Sato T, Sakuma Y, Sasaki K, Takahashi N: Quantification, Identification and Characterization of bacteria within acrylic resin denture bases. JSPS アジア研究教育拠点・生体-バイオマテリアル高機能インターフェイス科学推進事業共催ナノ・パーティクルおよび高機能インターフェイス科学シンポジウム (山形), 2007年8月10日

- 12) 竹内裕尚、中條和子、佐藤拓一、佐久間陽子、佐々木啓一、高橋信博：アクリルレジン義歯床内部に潜む細菌の検出とその生物学的性質の解析。第2回生体-バイオマテリアル高機能インターフェイス科学推進事業共催カンファレンス力学適応能、自己組織化能を有するバイオマテリアル-生体インターフェイスの創製（福岡），2007年10月28日
- 13) Sato T, Abiko Y, Mayanagi G, Matsuyama J, Takahashi N: Detection of periodontopathic bacteria in periodontal pockets by nested polymerase chain reaction. The 2nd International Symposium for Interface Oral Health Science (Sendai), February 19, 2007. Program and Abstracts of the International Symposium for Interface Oral Health Science, p. 48, 2007. (Abstract# P44)
- 14) Nakajo K, Takahashi Y, Kiba W, Imazato S, Takahashi N: Fluoride released from glass-ionomer cement is responsible to inhibit the acid production of caries-related oral streptococci. The 2nd International Symposium for Interface Oral Health Science (Sendai), February 19, 2007. Program and Abstracts of the International Symposium for Interface Oral Health Science, p. 45, 2007. (Abstract# P38)
- 15) Washio J, Nakajo K, Sato T, Matoba S, Seki T, Yamamoto N, Yamamoto M and Takahashi N: The hydrogen sulfide production by oral *Veillonella*: effects of substrate and environmental pH. The 2nd International Symposium for Interface Oral Health Science (Sendai) February 19, 2007. Program and Abstracts of the International Symposium for Interface Oral Health Science, p. 40, 2007. (Abstract# P28)
- 16) Miyasawa-Hori H, Aizawa S, Washio J, Takahashi N: Inhibitory effects of maltotriitol on the growth and the adhesion of mutans streptococci. The 2nd International Symposium for Interface Oral Health Science (Sendai) February 19, 2007. Program and Abstracts of the International Symposium for Interface Oral Health Science, p. 51, 2007. (Abstract# P50)
- 17) Abiko Y, Sato T, Mayanagi G, Takahashi N: Profiling of subgingival plaque biofilm microflora of healthy and periodontitis subjects by real-time PCR. The 2nd International Symposium for Interface Oral Health Science (Sendai), February 19, 2007. Program and Abstracts of the International Symposium for Interface Oral Health Science, p. 44, 2007.

(abstract# P36)

- 18) Ito Y, Sato T, Mayanagi G, Yamaki K, Shimauchi H, Takahashi N: Microflora profiling of root canal utilizing real-time PCR and cloning-sequence analyses based on 16S rRNA genes -Differences between before and after root canal treatments-. The 2nd International Symposium for Interface Oral Health Science (Sendai) February 19, 2007, Program and Abstracts of the International Symposium for Interface Oral Health Science, p. 45, 2007. (Abstract# P37)
- 19) Masaki M, Sato T, Sugawara Y, Sasano T, Takahashi N: *Candida* species as members of oral microflora in oral lichen planus. The 2nd International Symposium for Interface Oral Health Science (Sendai), February 19, 2007. Program and Abstracts of the International Symposium for Interface Oral Health Science, p. 46, 2007. (Abstract# P40)
- 20) Miyoshi Y, Watanabe M, Takahashi N: Gelatinase activity in human saliva and its fluctuation in the oral cavity. The 2nd International Symposium for Interface Oral Health Science (Sendai), February 19, 2007. Program and Abstracts of the International Symposium for Interface Oral Health Science, p. 44, 2007. (Abstract# P35)
- 21) Aizawa S, Miyasawa-Hori H, Mayanagi H, Takahashi N: The effect of amylase and its inhibitors on acid production from starch by *Streptococcus mutans* and *Streptococcus sanguinis*. The 2nd International Symposium for Interface Oral Health Science (Sendai), February 19, 2007. Program and Abstracts of the International Symposium for Interface Oral Health Science, p. 51, 2007. (Abstract# P49)
- 22) Matsuyama J, Sato T, Takahashi N, Sato M, Hoshino E: Real-time PCR analysis of genera *Veillonella* and *Streptococcus* in healthy supragingival plaque biofilm microflora of children. The 2nd International Symposium for Interface Oral Health Science (Sendai), February 19, 2007. Program and Abstracts of the International Symposium for Interface Oral Health Science, p. 48, 2007. (Abstract# P43)
- 16) J. Washio, Y. Shimada, R. Sakamaoto, M. Yamada, N. Takahashi: Effects of pH and lactate on the production of hydrogen sulfide by oral *Veillonella*. The 7th International Conference of the International Society for Breath Odor Research. (Chicago) 2007年8月22~24日.

- 17) Takeuchi Y, Nakajo K, Sato T, Sakuma Y, Sasaki K, Takahashi N:
Quantification and identification of bacteria within acrylic resin denture bases.
The 12th International College of Prosthodontists (Fukuoka), 2007年9月6日
Program and Abstracts pp. 181-182, 2007
- 18) 小関健由、小坂 健、高橋信博、佐々木啓一、高田春比古、菊地正嘉、川村 仁、
渡邊 誠：東北地方の地域歯科保健推進に向けた東北大学の取り組み—東北大学地
域歯科保健推進室の設置—。第19回日本口腔衛生学会・東北地方会（仙台）,2007
年5月26日（Abstract # P7）
- 19) 相澤志津子、宮澤一堀はるみ、真柳秀昭、高橋信博：口腔細菌のデンプンからの酸
産生とそれに対するアミラーゼ阻害剤の効果。第45回日本小児歯科学会大会（東
京）2007年7月20日 小児歯科学雑誌 45(2): 222, 2007（Abstract #A-16）
- 20) 中條和子、川嶋順子、会場理恵、木村茉莉恵、佐々木真、高橋信博：高濃度フッ化
物の口腔内細菌に対する生存抑制効果。第49回歯科基礎医学会学術大会（札幌）,
2007年8月30日 *J Oral Biosci* 49(S): 160, 2007.（Abstract #P-207）
- 21) 鷺尾純平、高橋信博：口腔 *Veillonella* は cystathionine β -synthase 様活性を持ちシステ
インから硫化水素を産生する。第49回歯科基礎医学会学術大会（札幌）,2007年8月
30日 *J Oral Biosci* 49(S): 161, 2007.（Abstract #P-211）
- 22) 安彦友希、佐藤拓一、松下健二、高橋信博：高齢者の歯肉縁下プラークバイオフィ
ルムにおける歯周病関連菌の存在。第49回歯科基礎医学会学術大会（札幌）,2007
年8月30日 *J Oral Biosci* 49(S): 126, 2007.（Abstract #P-71）
- 23) 三好慶忠、渡辺誠、高橋信博：唾液ゲラチナーゼ活性とその活性化について。第49
回歯科基礎医学会学術大会（札幌）2007年8月30日 *J Oral Biosci* 49(S): 121, 2007.
（Abstract #P-52）
- 24) 相澤志津子、宮澤一堀はるみ、真柳秀昭、高橋信博：口腔レンサ球菌によるデンプ
ンからの酸産生とアミラーゼ阻害剤による影響。第49回歯科基礎医学会学術大会
（札幌）,2007年8月30日 *J Oral Biosci* 49(S): 129, 2007.（Abstract #P-81）
- 25) 橋本紀洋、佐藤拓一、島内英俊、高橋信博：根面う蝕プラークバイオフィルム細菌
叢のプロファイリング。第49回歯科基礎医学会学術大会（札幌）,2007年8月30

日 *J Oral Biosci* **49(S)**: 127, 2007. (Abstract #P-74)

26) 竹内裕尚、中條和子、佐藤拓一、佐々木啓一、高橋信博：レジン床義歯内部に潜む細菌の検出. 第49回歯科基礎医学会学術大会(札幌), 2007年8月30日 *J Oral Biosci* **49(S)**: 170, 2007. (Abstract #P-245)

27) 田口千恵子, 山内里央, 小林清吾他：新型フッ化ナトリウム・サチュレーターの開発, 口腔衛生会誌 57 (4) : 466, 2007.

厚生労働科学研究費補助金
(医療安全・医療技術評価総合研究事業)

フッ化物応用による歯科疾患予防プログラムの
構築と社会経済的評価に関する総合的研究

(H19-医療-一般-019)

平成 19 年度
総括研究報告書

平成 20 年 4 月

発行責任者：厚生労働科学研究
「フッ化物応用の総合的研究」班
主任研究者 眞木吉信

印刷：千葉孔版(株)

©本書内容の無断掲載を禁じます。

200732043A

本研究報告書には下記の DVD が添付されています。

フロリデーシヨンの科学

